

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 2年目 3年目 最終)

令和 3 年 4 月 30日

沖縄県知事 様

令和 2 年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 宮古島市下地字嘉手苅660-2
事業主体名 社会福祉法人大立福祉会
代表者職氏名 理事長 比嘉克子 印

事業主体名(法人名等)		介護サービス事業所名		介護サービスの種別	
社会福祉法人大立福祉会		特別養護老人ホームしもじ長生園		介護老人福祉施設	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
見守り		パルモスマートコール			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リース・レンタルの契約期間		
令和3年3月29日	1セット	令和2年11月10日	年 月 日から	年 月 日まで	
【目標の達成状況】					
①達成項目(複数選択可)					
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input type="checkbox"/> 業務の効率化 <input type="checkbox"/> その他 ()					
②達成内容					
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。 1日6回行っている巡回については、ナースコールボタン、カメラ付き両方向通信機、ベッド起き上がりセンサーを導入することで3回(5割の減)を目指し、1年目の時点では、4回(約3.3割の減)である。					
【介護ロボットの使用状況(使用する業務・使用頻度等)】					
※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 利用者毎及びすべてのトイレ便器毎に1台のナースコールボタン、見守り用カメラ付き両方向通信機器及びベッド起き上がりセンサーは転倒・転落のリスクの高い入居者に使用、通信環境は施設全体をカバーできるよう設置を行い、施設のどこにいても呼び出しコールを認識できる。 ナースコールは助けが必要な都度使用。ベッド起き上がりセンサーは昼、夜を問わずベッドからの移動の都度使用。見守り用カメラ付き両方向通信機器は特に夜間帯に不穏状態の利用者に使用。					
【介護ロボットの導入効果(使用する業務・使用頻度等)】					
※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。 スマートフォンを携帯することで、どこでナースコールが鳴っているか即時にわかるため、介護時間の短縮ができた。 夜間帯は介護職員の人数が少ないが、カメラ付き両方向通信機を利用することで、精神的・身体的な負担軽減ができた。					
【介護ロボットの不都合な点の課題】					
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 スマートフォンをポケットに携帯していると、誤作動することがある。 →対応としてはロック機能を設定する。					

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません





【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。

